

## R3年度 本校と東京大学等による「交通課題の解決に向けての共同研究」 ～生徒が主役となり能勢町の交通問題の解決に取り組む～

●テーマ：中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定

●主要なプロジェクトメンバー：

- ・研究代表者：北村友人 教授（東京大学大学院教育学研究科）
- ・その他大学：宇都宮大学、大阪大学、九州大学、大阪市立大学、富山大学、東北公益文科大学、ウィーン工科大学、大阪国際大学、上智大学
- ・豊中高校能勢分校、能勢町役場、株式会社 能勢・豊能まちづくり
- ・公益財団法人 国際交通安全学会（IATSS）

本校は町内外より多くの生徒が徒歩、送迎、路線バスなどを利用して通学している。また、町内では自転車を利用している生徒も多く、安全面において、山間エリア特有の多くの課題を抱えている。その問題を解決するべく、安全面や環境面などへの効果や改善点などを生徒が中心になって考え取り組んでいく研究プロジェクトが始まった。

今回、このプロジェクトが公益財団法人 国際交通安全学会（IATSS）で採択され、様々な大学から集まったプロジェクトメンバーである大学の先生方と高校生が、共同研究を進める。本校では、「地域魅力化クラブ」部員が中心となって、教育、交通を専門とする大学の先生方と共に、全校で以下の具体的アプローチで交通課題解決に取り組む。

高校生が中心となり活動することで、地域住民への理解を深め、交通安全に対する意識が向上するとともに、同じような課題を抱える地域でも応用可能なモデル開発ができることを期待する。このプロジェクトが高校生にとって大きな学びの場となることであろう。

### <具体的アプローチ>

- ・通学困難生徒へ e-bike（電動アシスト付スポーツバイク）の貸出
- ・通学路の街灯未整備（通学路の大部分に街灯が整備されていない）
- ・トンネルの走行（トンネルが多く、自転車とのすれ違いが危険）
- ・路面の整備不足（路面の凹凸が激しい）
- ・野生動物との遭遇（鹿、イノシシなどとの接触事故）
- ・自然災害への対応（土砂災害や雪・凍結など）

研究プロジェクトの前後で、「知識」「技能」「価値観・態度・意識」など、生徒にどのような教育的効果があったか、アンケート等で検証、評価する。

国際交通安全学会（IATSS）研究調査HP：<https://www.iatss.or.jp/research/>